定本

原民喜全集

Ⅲ

青土社

定本原民喜全集Ⅲ
© 1978, Seidosha
一九七八年一一月二〇日　印刷
一九七八年一一月三〇日　発行
定価——四八〇〇円　3090-900023-3978

著　者——原民喜
発行者——清水康雄
印刷所——東陽印刷
製本所——美成社
発行所——青土社　東京都千代田区神田神保町一ノ二九　市瀬ビル　〒101（電）二九二—七〇七六

編集委員　山本健吉・長光太・佐々木基一

定本原民喜全集Ⅲ　目次

全詩集　5
画集　7
はつ夏 8　気鬱 9　祈り 10　夜 11　死について 12　冬 13
原爆小景　15
コレガ人間ナノデス 16　燃エガラ 17　火ノナカデ電柱ハ 20　日ノ暮レチカク 21
真夏ノ夜ノ河原ノミヅガ 22　ギラギラノ破片ヤ 23　焼ケタ樹木ハ 24　水ヲ下サイ 25
永遠のみどり 28
魔のひととき　29
魔のひととき 30　外食食堂のうた 31　讃歌 32　感涙 34　ガリヴァの歌 35　家
なき子のクリスマス 36　碑銘 37　風景 38　悲歌 39
拾遺詩篇　41
かげろふ断章　43
昨日の雨　45
断章　91
散文詩　123
千葉海岸の詩　139
全句集　145
杞憂句集　その一　147
杞憂句集　その二　187

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

歌仙二巻　215

書簡集・遺書　225
書簡一―家族・親族宛　227
書簡二―友人・知人宛　265
遺書　329

拾遺集　337
原爆被災の記録　338
「三田文学」編集後記　343
「三田文学」六号記　367
『夏の花』後記　367
『ガリバー旅行記』あとがき　368
「ルナアル日記、第四冊」に就いて　371

解説　藤島宇内　375
初出誌紙・単行本刊行一覧　399
原民喜年譜　403

定本

原民喜全集

Ⅲ

画集

はつ夏

ゆきずりにみる人の身ぶりのうちから　そのひとの昔がみえてくる。垣間みた　あやめの花が　をさない日の幻となる。胸をふたぐといふのではない、いつのまにかつみかさなつたものが　おのれのうちにくるめいてゐる。藤の花の咲く空、とびかふ燕。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

気鬱

母よ、あなたの胎内に僕がゐたとき、あなたを駭かせたといふ近隣の火災が、あのときのおどろきが僕にはまだ残つてゐる。(そんな古いことを語るあなたの記憶のなかに溶込まうとした僕ももう昔の僕になつてしまつたが) 母よ、地上に生き残つていつも脅やかされとほしてゐるこの心臓には、なにかやはりただならぬ気鬱が波打つてゐる。

祈り

私は夏の数日を、その家の留守をあづかつてゐた。広い家ではなかつたが、ひとり暮しには閑寂で、宿なしの私には珍しく気分が落着いてきた。ある夜ふけ、窓から月が差し、……すると、お前と暮してゐた昔どほりの家かとおもへた。

もつと軽く　もつと静かに、たとへば倦みつかれた心から新しいのぞみのひらかれてくるやうに　何気なく畳のうへに坐り、さしてくる月の光を。

夜

荒れ野を叫びながら逃げまどつてゐたときも、追ひつめられて息がと絶えさうになつたときも、緑色の星と凍てついてしまつたときも、お前は睡つてゐた　睡つてゐた　おほらかな嘆きのやうに。

死について

お前が凍てついた手で　最後のマッチを擦つたとき、焔はパッと透明な球体をつくり
清らかな優しい死の床が浮かび上つた。
誰かが死にかかつてゐる　誰かが死にかかつてゐると　お前の頰の薔薇は呟いた。小さな　かなしい　アンデルセンの娘よ。
僕が死の淵にかがやく星にみいつてゐるとき、いつも浮んでくるのはその幻だ。

冬

いま朝が立ちかへつた。見捨てられた宇宙へ、叫びとなつて突立つてゆく　針よ　真青な裸身の。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com